
特 集

新入生歓迎シンポジウム

特集にあたって

今号が特集として掲載する文章は、2009年4月に早稲田大学政治経済学部に入学者の新入生に対して行われた新入生歓迎シンポジウムでの講演を基にして書かれたものである。このシンポジウムでは、政治経済学部で学ぶ3つのさまざまな学問分野を、政治学系、経済学系、教養・外国語系の3つの分野に大きく分け、各分野からそれぞれ1つのトピックについて、紹介してもらうという形がとられている。

過去においても、早稲田政治経済学雑誌でこのシンポジウムの内容が特集として掲載されたことがあったが、この特集がなぜ再度組まれたのかについて、若干説明をすることにしたい。

早稲田政治経済学雑誌を発行している早稲田大学政治経済学会は、早稲田大学政治経済学部にも所属する教員および学生（大学院生・学部生）によって構成される団体で、政治学・経済学の学問の普及・発展に寄与する活動を行うことをその目的としている。その目的に沿うものとして、早稲田大学政治経済学会は早稲田大学政治経済学部と共同で、毎年、政治経済学部の新入生を対象として新入生歓迎シンポジウムを開催している。このシンポジウムの趣旨は、大学の新入生に、政治学・経済学を中心とした学問の楽しさや雰囲気を理解してもらうことにある。その内容を紹介することは、新入生ばかりではなく、2年生以上の学部の学生、あるいは政治学や経済学などの入門者にとっても、十分に意義があるのではないかと考えられる。

早稲田政治経済学雑誌の主要な目的は、政治学および経済学の学術論文を掲載し、それを通じて学問に貢献することにある。したがって、この雑誌の主要な活動は学術論文の掲載にある。このことは政治経済学雑誌の基本理念なので、今後とも変更はないが、この雑誌の位置づけを考えると、もう少し広い内容も適宜扱えた方が望ましいという考え方が、編集委員会の中で、近年強くなってきた。そのことを受けてこの号から、雑誌で扱う論文も、投稿論文（レフェリーによる審査を伴う論文）、寄稿および依頼論文（編集委員会が掲載の可否を判断する論文）、その他（書評、シンポジウムなど）という大きく分けて3つのカテゴリーを明示して、掲載していくことになった。またこれに伴い、今年度からは早稲田政治経済学雑誌による、新入生歓迎シンポ

ジウムの内容を、恒例として掲載することになる。

2009 年度の新入生歓迎シンポジウムでは、早稲田大学政治経済学部で講義を担当なさっている岡山茂、田中久稔、都丸潤子の各氏に、それぞれ次のようなテーマで講演いただいた。

岡山 茂 「表象、ジャーナリズム、書物」

田中久稔 「ミクロ経済学とはどんな学問か」

都丸潤子 「人の移動と国際社会——国際関係論へのアプローチ」

新入生を意識した平易な書き方ではあるが、それぞれの分野に関する充実した紹介をしていただけたのではないかと思う。また、それぞれの末尾に、関連する分野での推薦図書を紹介していただいている。学生諸君には、是非、今後の学習・研究に役立ててほしい。

(文責 荻沼 隆)